平常時・非常時で相互に機能する歴史まちづくりのネットワークの構築

■調査実施地域：静岡県静岡市 等　■調査実施者：公益社団法人「静岡県建築士会」

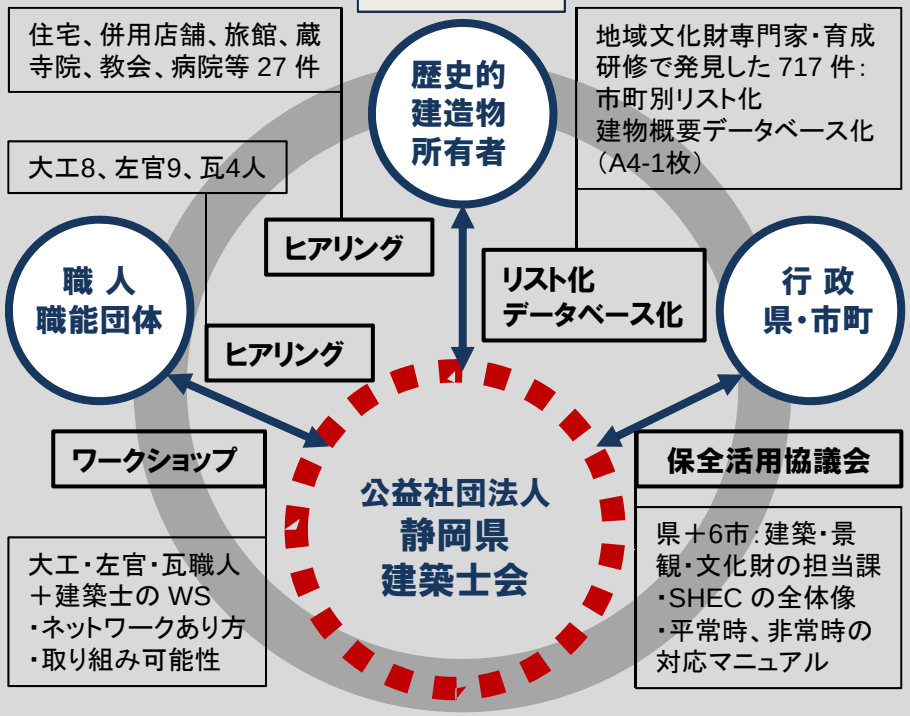
調査の目的

歴史的建造物は、その地域に生き続けてきた貴重な資産
歴史的建造物保全・活用を図り、個性あるまちづくりに活かしていく

住民（建物所有者等）、専門家（建築士、職人）、行政がそれぞれの役割を理解し、連携して取り組むことが必要

- 連携のしくみ
- ネットワークの構築
- 静岡県ヘリテージセンター
- ネットワーク構築のガイドライン
- 平常時・非常時における対応マニュアル

実施内容



調査の結果

実施プロセスの組織化・システム化

平常時

①行動について行政との共有
②非常時連絡網（ネットワーク体制図）作成
③歴史的建造物リスト＆マップを県・市町へ提供
④職人・職能組合との協定書
⑤職人リストと非常時連絡網
⑥歴史的建造物の被災調査の判定基準
⑦被災歴史的建造物の応急措置マニュアル

・広報PR　・一般市民へのSHECのPR
・市民向けの啓発活動　・所有者への理解

静岡県ヘリテージセンターSHEC
ワンストップ窓口

非常時

1次対応
・被災の状況等の情報収集
・2次対応できる構成員の確認
・市町の被災建築物応急危険度判定の実施状況把握

2次対応
・地域ごとチーム編成し被災状況の調査
・被災した歴史的建造物について、被災判定基準（別途）に基づき実施
・文化財等救済支援員と連携

3次対応
・歴史的建造物の被災に対する応急措置を検討
・職人が必要な場合、同行を要請
・指定文化財等の応急措置に関して県市町教委に協力

個性あるまちづくり

復興まちづくり